

事務事業評価シート

評価実施年度：平成28年度

上位の施策名称 施策Ⅱ-2-4
障がい者の自立支援

1. 事務事業の目的・概要

事務事業担当課長

障がい福祉課長 長岡 秀樹

電話番号

0852-22-6256

事務事業の名称	障がい者施設等整備事業	
目的	(1) 対象	障がい児・者施設設置者
	(2) 意図	障がい児・者が必要とするサービスを確保するための施設整備を促進する。
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> 障がい者福祉施設整備補助事業：障がい福祉サービスを提供する施設の整備をしようとする者に対し、その費用を補助する。 グループホーム整備事業：障がい者の生活の場であるグループホームを整備する事業者に対し、その費用を補助する。 	

2. 成果参考指標

成果参考指標名等		年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	単位
1	指標名	グループホーム利用定員増加数	目標値	1,401.0	1,433.0	1,465.0	1,497.0	人
	式・定義	グループホームの整備により増加した利用定員数	取組目標値					
			実績値	1,370.0				
2	指標名	障害者支援施設の耐震化率	目標値	100.0	100.0	100.0	100.0	%
	式・定義	耐震化されている障害者支援施設数/障害者支援施設数×100	取組目標値					
			実績値	100.0				
			達成率	-	-	-	-	%

3. 事業費

	前年度実績	今年度計画
事業費(b)(千円)	509,061	404,552
うち一般財源(千円)	157,397	178,569

4. 改善策の実施状況

前年度の課題を踏まえた改善策の実施状況	②改善策を実施した(実施予定、一部実施含む)
---------------------	------------------------

5. 評価時点での現状(客観的事実・データなどに基づいた現状)

<ul style="list-style-type: none"> 障がい者地域生活移行・支援のためには、グループホームの整備が引き続き重要な課題。(指標データ) 平成27年度に国県補助金による施設等整備件数 国県補助金 5カ所(うちGH1カ所) ※H28.4.1時点GH定員1,370人(前年同期1,327人) → +43人
--

6. 成果があったこと(改善されたこと)

国県補助を活用し、グループホームや日中系施設の整備が進んだ。

7. まだ残っている課題(現状の何をどのように変更する必要があるのか)

<p>①困っている「状況」</p> <ul style="list-style-type: none"> 国の通常ベース予算が減額傾向にあり、ニーズに応じた整備に支障をきたしている。
<p>②困っている状況が発生している「原因」</p> <ul style="list-style-type: none"> 国の財政逼迫
<p>③原因を解消するための「課題」</p> <ul style="list-style-type: none"> 国の予算確保 限られた予算の最適な配分

8. 今後の方向性(課題にどのような方向性で取り組むのかの考え方)

<ul style="list-style-type: none"> 第4期障がい福祉計画の目標に従って、地域移行の推進を図るため、圏域の整備状況等を把握しながら着実にグループホーム・日中系事業所の整備を促進する。 県内の施設整備のニーズは高く、国の補助金配分枠を上回る状況である。所要額の確保に向けて国に働きかけていくとともに、県予算の確保に努める。 限られた予算を最適に配分するため、施設の整備優先度を明確にし、着実に整備を行っていく。

・課(室)内で事務事業評価の議論を行うにあたっては、本評価シートのほか、必要に応じて、「予算執行の実績並びに主要施策の成果」や既存の事業説明資料などを活用し、効果的・効果的に行ってください。

・上記「5. 評価時点での現状」、「6. 成果があったこと」、「7. まだ残っている課題」、及び「8. 今後の方向性」について、議論がしやすいように、「5. 評価時点での現状→6. 成果があったこと」、又は「5. 評価時点での現状→7. まだ残っている課題→8. 今後の方向性」が一連の流れとなるよう、わかりやすく、ストーリー性のあるシート作成に努めてください。

9. 追加評価(任意記載)

--